

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 9 No 08

9 8 号

平成13年 9月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

小児科が危ない!

院長

最近、新聞やテレビで、小児医療についてよく報道されていることを御存知ですか。8月24日の河北新報では、『小児科受難』の題で、相次ぐ休診、窓口廃止・東北の病院という副題が付き掲載されていました。築館町の公立築館病院では、退職する小児科医の後任が決まらず、休診しています。大学病院の小児科に医師派遣を要請しましたが、めどが立たない状況です。テレビでも小児科医が足りないなどの特集が組まれ、小生が見ただけでもニュースステーション、EZ!TVなどがありました。

東京都の統計では開業小児科医の平均年齢が、他の科と比べて10歳近く高くなっているのです。つまり小児科医になる医師の数が、少ないことを物語っています。その理由に小児科医の激務があると思われています。テレビなどでも御存知のように、救命救急センターでの小児科医の忙しさ(激務)が報道されています。確かに小生も新生児医療に従事していたときには、2~3日も病院に泊まりっぱなしということも、珍しくはありませんでした。ある意味では、小児医療は個人的犠牲の上に成り立っているのかもしれない。また小児医療には人手が、かかります。点滴するのも採血するのも、看護婦さん一人だけでは、なかなか困難です。人手がかかる割に、診療報酬(医療費の収入)が少ないのが小児科です。そのため病院での小児科の閉鎖が、後を絶ちません。東北地方でも2年間に20もの病院の小児科が閉鎖されています。幸い仙台市内の病院では、小児医療に対する理解が深いため閉鎖されるような病院はほとんどありません。小児科は現状では地域医療と考え、住民に対するサービスの一つと考えなければ運営していけないのかもしれない。そのような医療環境の中で、将来に対する不安も大きいため小児科医を志す医学生が少なくなっているのも事実です。それに拍車をかけているのが、少子高齢化です。少子化が進むことは、小児医療の環境を益々悪くする要因となるでしょう。

さて「かわむらこどもクリニック」のような、開業医で

はどうなのでしょう。か。東京などの中心部では、大都市の過疎化や少子化の影響がありますが、現在のところ、あまり大きな影響はありません。核家族化や周囲

とのつながりの希薄さなどにより、母親達は孤立しています。またこども育てにくい社会環境により一人のこどもに対しての思い入れが強くなってきています。孤立化と一人っ子のため病気に対する不安や心配も強くなり、むしろ開業医では混雑することが問題になっています。これも小児科医が少ないことの現れです。

小生がインターネットでの医療相談を全国から受けていることは、御存知でしょう。なぜ見ず知らずの医師に、相談をするのでしょうか。先日相談者に対して、アンケート調査を行いました。他の医師に相談をした理由(図)では、「説明してもらったが不安がとれなかった」が49.3%で最も多く、以下「説明も理解も出来たが他の医師の意見を聞いたかった」26.4%、「聞きたくても話してくれなかった」12.2%、説明してくれなかった」6.1%、「説明してもらったがわからなかった」6.4%の順でした。小児医療に対する意見や要望と合わせて判断すると、やはり小児科医が少ないということに行き着きます。医療機関が少ないため混雑し、医師からの説明を十分に受けられないことが医療相談を求める理由になっていました。



さて、解決法はあるのでしょうか。このままでは、ますます小児医療の環境が悪くなります。まずは小児科医を増やすことを考えなければなりません。診察の時、医学部の学生さんに出くわしたことがあるのかもしれない。当院では東北大学の小児科の学生実習を受け入れています。学生さんに小児医療を理解してもらうだけでなく、患者さんとクリニックのコミュニケーションを通して心配や不安の解消の大切さに気付いてもらえればと思っています。

今回は、小児医療の問題点を考えてみました。ただ問題を羅列しただけで、終わってしまった感があります。このような問題があるということを知ってもらえればいいと思います。小児科医を増やすことなどの、根本的な問題は開業医一人では出来ないことです。しかし目の前にある小児医療の問題に対して、「不安・心配の解消」と「コミュニケーション」は、解決のためのキーワードの一つになるでしょう。

9月のお知らせ

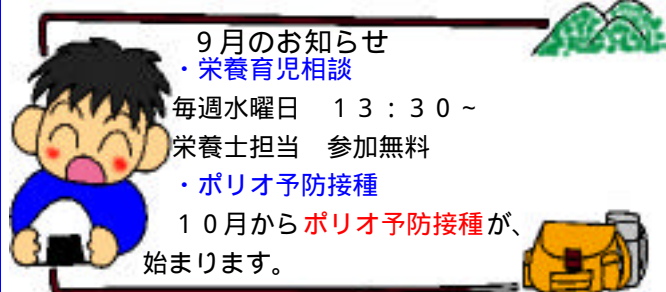
- ・栄養育児相談

毎週水曜日 13:30~

栄養士担当 参加無料

- ・ポリオ予防接種

10月から **ポリオ予防接種**が、始まります。



読者の広場

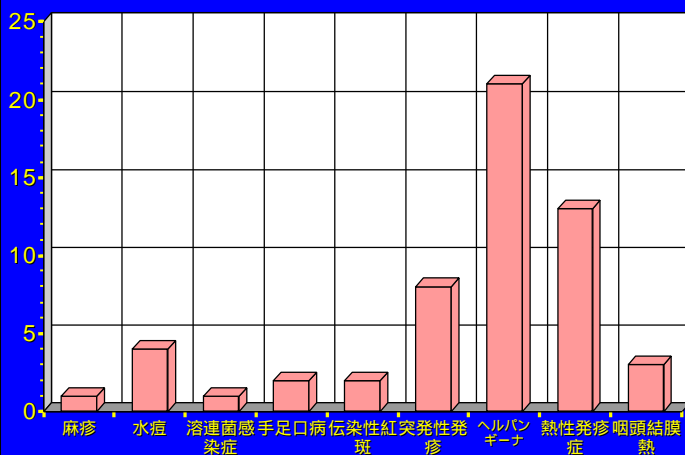
まず最初にお詫びを一つ、新聞の号数が3月から間違っていました。正確には、今月で98号です。訂正して、お詫びします。夏季休暇もありメールも少なかったのですが、それでも17件頂きました。お知らせしていたように、夏休みは骨折後のプレート（骨折を支えていた金属）除去手術をしました。前は痛みや麻酔の副作用（頭痛）で辛い思いをしましたが、今回は痛みもなく実に退屈な入院生活でした。少しでも取り戻そうと（？）、入院中中庭で日光浴をしていました。今回の件では御迷惑や御心配をおかけして申し訳ありませんでした。やっと普通の体になった感じです。いろいろありがとうございました。さていつものようにメールを紹介したいと思います。まずは宮城野区の柴田さんからです。「今日はありがとうございました!車がなくて不便な思いをしながらの生活も終わり ポロいながらもかわむら先生の所に行く足ができました。でも最近では季節的なものもあるのか息子達も元気に過ごしていました。寒い日が続いたせいかかのが発熱して、お世話になったのですが 不思議な事に家に帰ると熱が下がりました!。いつも思うのですが病院に行くと、それまで辛そうだった子供達の様子が楽になる時が多いのです。きっと、かわむら先生に見て頂いた安心感からだと思います。だから、かわむら先生の所でいつも 知らず知らずのうちにヒーリングをして頂いていると思うと得した気分です。本当に色々なお母さん達から言われ慣れているとは思いますが、かわむら先生と看護婦さん達がいてくれるから子育てを頑張れていると思っています。これからも親子共々よろしくお祈りします!!!」。子どもは病気の時でも、外に出たい気持ちが強いものです。病院がお気に入りの子どもにとっては、来るだけで欲求不満も解消されて元気のように見えるのでしょうか。ひょっとすると、お母さんの安心する気持ちも関係しているのかもしれませんが。来院するだけで病気が治ってしまう病院があればいいですね。次は宮城野区の古山さんからです。「古山珠里奈の母です。先日子供の痰が苦しそうで心配だったので鼻水を吸引してもらいました。先生にはあまりやらないほうがいいと言われましたが少しは楽になるかなと思ってやってもらったところ、苦しそうに泣いてるのを見てやっぱりやめた方がよかったのかな?と思いました。私も喘息がひどかった子供の頃すごく苦しくて死にそうだったことも多かったので、気管が弱かったら本当に可哀相だなーと思ってしまい、心配してました。今日はなんとか夜中も眠ってくれてひと安心しましたが、私も風邪が直ってなくて頭痛がするので、少し落ちていました。そしたら先程看護婦さんから電話をいただきました。電話をわざわざいただけるとは思っていませんでした。明日また受診した方がいいとのことで、かなり具合はよくなりましたがよろしくお祈りします。ところで一緒にいった場合、大人用の薬もいただけるのでしょうか?（略）」。気になる症状やお母さんの心配が強い場合には、こちらか電話することがあります。これも当院の理念の「お母さんの不安・心配の解消」の一つです。また電話がいくかもしませんが、よろしくお祈りします。回りに内科医院もあるので、内緒で一言。当院にかかっている子の親御さんに関しては、診察もしています。理由は子どものことを優先するあまり、自分が我慢してしまうからです。そして子ども健康のためには、親御さんの健康も大事という考えも理由の一つです。でも医師の責任ということもあるので、高血圧や糖尿病など大人の病気は、ちゃんと内科の先生に診てもらって下さい。



100号特集号について

もうすぐ創刊100号（11月号の予定）になります。これを記念して、特集号を計画しています。紙面を増やして、様々な企画をしたいと思っています。是非、特集号に、当院に対する思いや記念になるもの（写真でも絵でも可）を。一つの区切り、思い出になればよいと思っています。どしどし応募を!!。詳しくは窓口で。

8月の感染症の集計



8月は一年で一番病気が少ない月です。ヘルパンギーナなどの夏風邪は、比較的多く見られるものの、他の病気は全て減少しています。麻疹も月初めに、1例のみでした。麻疹に関しては、ここで終息宣言をしてもいいと思います。

新しい看護スタッフが入りました

小児科のベテランの看護婦さんです。今回は、本当に頼もしい助っ人が現れた感じです。従来のスタッフ同様、よろしくお祈りいたします。

こんにちは。新しく入りました佐藤陽子です。以前は古川市の小児科に勤めていました。趣味は「パソコン」と言いたいところですが、まだ電源を入れる事しか出来ません。メールが出来るよう目下勉強中です。お母さん方の頼りになれるような看護婦めざして頑張りますので、宜しくお願い致します。

編集後記

今年は淋しいくらいの夏でした。怪我の身にとっては、ちょうどよかったのかもしれませんが。患者さんも少ないのは今のうちで、集団生活が始まれば、また増えていくでしょう。今の時期は、しっかり話を聞くチャンスです。



K's clinic